

平成23年度 山形大学公開講座〔人文学部〕

遠い方言 近い方言



6
2 木

多様な英語にみる方言の力

人文学部 講師 嶋田珠巳

6
6 月

若者の東北方言

— 消える方言・残る方言・拡大する方言

人文学部 准教授 池田光則

6
9 木

多言語国家フランス

人文学部 教授 阿部宏慈

6
13 月

方言の使い分けと役割語

人文学部 教授 渡辺文生

6
16 木

山形の方言 — 民話と民俗

人文学部 教授 菊地 仁

東北文科大学短期大学部 教授/東北文科大学短期大学部民話研究センター長 佐藤 晃
(司会: 人文学部 准教授 森岡卓司)

日 時: 平成23年6月2日(木)～6月16日(木)
午後6時30分～8時10分 [月・木 計5回]

場 所: 山形大学人文学部1階 104教室

対 象: 一般・大学生・高校生 定員30名

受 講 料: 一般 2,000円

大学生・高校生は無料

募集期間: 平成23年5月9日(月)～5月31日(火)

■お問い合わせ先

山形大学人文学部事務室

電話: 023-628-4203

E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

遠い方言 近い方言

講座の概要

「方言」とは、いったいどのようなことばなのでしょう。ごく身近にあって、他のどのことば以上に「自分のもの」と感じられるにも関わらず、その定義は必ずしも明らかではありません。例えば、方言と流行語との違いは明確には定められませんし、逆に、方言と見なされてきたものが、一つの独立した体系を持つ別言語だと自ら主張する場合があります。あらためて考えてみると、「方言」とは、優れて関係的な概念です。標準とされることばがなければ、方言と見なされることばもありえないからです。今あなたが、そして私が使っているこのことばも、時と場合によって、方言であったりなかったりと、その顔を変えてゆく可能性を持つのです。しかし、あるいは、だからこそ、その不確かな存在に、私たちは様々な思いをこめて方言を使うのかもしれない。今回の講座では、国境・時代を超えた様々なジャンルの専門家から、「方言」が作り出される過程、そして「方言」から生まれる言葉や人同士の関係を語って頂きます。

第1回目 多様な英語にみる方言の力

人文学部 講師 嶋田 珠 巳



第一日目のテーマは、言語の個性、方言の個性、英語の地域性。たとえば、イギリスのお隣、アイルランド英語のアイルランドらしさはどのようなところに見いだされるのでしょうか。標準語と方言、言語とコミュニティ、言語意識とことばの変化などについて考えながら、アジアにも、そして日本にも、「らしさ」を許容してひろがりをもちつつある英語の諸相をみていきます。

第2回目 若者の東北方言 ― 消える方言・残る方言・拡大する方言

人文学部 准教授 池田 光 則



まず、国立国語研究所刊行の『日本言語地図』や『方言文法全国地図』等を見ながら、日本各地域の伝統方言について特色と分布を概観します。次に、10年間にわたり毎年400名前後の山形大学1年生を対象に実施したアンケート調査結果をもとに、若者世代の方言使用の実態と方言に対する意識を分析し、主として東北地方の方言について伝統方言からの変容の様子を考察します。

第3回目 多言語国家フランス

人文学部 教授 阿部 宏 慈



「ある民族がどれいとなっても、その国語を保っているかぎりには、そのろう獄のかぎを握っているようなものだ」とアメル先生は語り、「フランス、アルザス、フランス、アルザス」とみごとに丸い書体で書きましたが（『最後の授業』）、それをお手本に書き取りをした「アルザスの一少年」は、普段何語で話していたのでしょうか？フランス語と方言、さらにはフランスにおける非フランス語の問題を通じて、近代的な国民国家と「国語」の問題を考えてみたいと思います。

第4回目 方言の使い分けと役割語

人文学部 教授 渡辺 文 生



私たち日本人は、生活している地域で使われることば（方言）だけを用いているのではなく、さまざまな場面で共通語と方言を使い分けてコミュニケーションをしています。その共通語と方言の使い分けの実態について、さまざまな観点から話題を取り上げてお話ししようと思います。特に、最近の日本語研究において注目を集めている役割語という観点から方言の使われ方について考察します。

第5回目 山形の方言 ― 民話と民俗

司会：人文学部 准教授 森岡卓司

人文学部 教授 菊地 仁



東北文教大学短期大学部 教授
東北文教短期大学部民話研究センター長
佐藤 晃



講座の最終回は、東北文教大学短期大学部民話研究センターから佐藤晃先生をゲストにお招きして、トークセッションを行います。この山形の民話、民俗のなかに豊かに息づき、そして様々にかたちを変えながら受け継がれていくであろう方言のことを、説話、口承文芸、民俗学研究の最前線から縦横に語りつくします。そこからは、山形だけではなく、世界中の「方言」のこれまで、そしてこれからが見えてくることでしょう。ぜひ、皆さんもご参加ください。

02		払 込 取 扱 票		通常払込料金 加入者負担	
口座記号番号		金額	千	百	十
0 2 2 6 0 - 7		9 2 4 7 8			
国立大学法人山形大学		料金		備考	
*「遠い方言、近い方言」申込書		※この払込用紙は、1人1枚をご使用ください。（人文学部） ○職業をお書きください。（ ） ○年齢をお書きください。（ ） ○今後の連絡の便宜のためにEメールアドレスをお持ちの方は ご記入ください。（ ） ※個人情報について 提出いただいた書類の個人情報は、本公開講座の参加に関する手続きのみに使用し、 第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、今後の公開講座やセミナー 様のご案内を本学からお送りする場合がございます。□承諾する □承諾しない（いずれかをチェック願います）			
おとこ（郵便番号）		日 附 印			
おなまえ		様			
（電話番号）		日 附 印			
裏面の注意事項をお読みください。（ゆうちょ銀行）（承認番号仙第9982号）		これより下部には何も記入しないでください。			

振替払込請求書兼受領証	
口座番号	0 2 2 6 0 - 7
加入者名	国立大学法人山形大学
金額	千 百 十 万 千 百 十 円 2 0 0 0
おなまえ	
ご依頼人	様
料金	日 附 印
備考	



この講座はゆとり都力レッジに参加しています。

- 募 集 人 員** ◆ 一般・大学生・高校生 30名
- 募 集 期 間** ◆ 平成23年5月9日(月)～5月31日(火)
- 受 講 料** ◆ 2,000円(大学生・高校生は無料)
- お申し込み方法** ◆ 下の「払込取扱票」に記入の上、受講料の振り込み手続きをしてください。通信欄には、職業、年齢を記入してください。先着順に受け付け、受講票をお送りします。
 なお、大学生・高校生は、メールあるいは電話で、住所、氏名、電話番号、年齢を下記のお問い合わせ先にご連絡ください。
- お問い合わせ先** ◆ 〒990-8560
 山形市小白川町1-4-12 山形大学人文学部事務室
 TEL: 023-628-4203
 E-mail: jisoumu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 会 場 案 内** ◆ 山形大学人文学部1階 104教室
 大学正門を入って正面の建物です。
 受付は人文学部正面玄関にて行います。
- そ の 他** ◆ **【公共交通機関ご利用のお願い】**
 現在、山形大学小白川キャンパスでは、駐車場が非常に手狭になっております。公開講座当日はできるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。

この受領証は、郵便局で機械処理をした場合は郵便振替の払込みの証拠となるものですから大切に保存してください。

ご注意
 この払込書は、機械で処理しますので、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。

この場所には、何も記載しないでください。